

資料① 令和4年度 社小学校教職員による自己評価

※採点：4…できた 3…ややできた 2…ややできなかった 1…できなかった

1 主体的な研修<3. 2>

「誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。」

【成果や課題】

- 研究の方向性が変わって、1年目であるので、全職員が同じ方向を向いて研究に向かう素地ができたと思う。事後研は、グループ討議からの全体への発信となり、自分の考えや思ったことを発信する場が設けられた。
- 勝見先生の講義が具体的でよかった。単元のデザインで子どもに何の力をつけさせたいかという観点が非常に重要であることが分かった。
- 授業研を見させていただいた後の研修については、新たな視点や深い意見を述べることはできず高め合うところへ参加しきれなかった。
- 多様性を包摂する学習活動の創造が課題。

【改善・確認事項】

- ★事後研での討議が深まるように、討議の柱を「児童に～な力をつけるために、～する。」などの学習指導要領に則った授業者のねらいにして、授業を見る視点をはっきりさせる。
- ★研修会や研究会に参加し学んだことは、資料を回覧で回す、学年に話すなどして、全体に広げる。

2 言葉の力を身に付ける学習指導<2. 9>

「言葉の力を身に付け、思いを伝え合う授業づくりに取り組む。」

【成果や課題】

- 言葉にこだわって読み取る授業づくりを意識して自分なりに取り組んだ。言葉にこだわっている発言やノートの記述を共有することで、どういうことが言葉にこだわっているのかというモデルを示したり、板書を工夫したりしたことが少しずつ児童に伝わっていった。
- 根拠を明確にして主張する（結論付ける）過程を実践することで、それが「言葉の力」につながり、各教科でも生かされていると思う。
- 自分の意見をもたせ、他者に考えを伝える学習活動の場は、積極的に設定した。しかし、話すこと、聞くこと自体が難しい児童もおり、繰り返し指導していくことが必要である。
- 研究1年目で、いろんなことを試されたと思う。ただ、もっと、授業の中で、自分の言葉で語り合い、深め合える授業づくりを目指して、研究に取り組んでいきたい。

【改善・確認事項】

- ★言葉の力を身に付けさせるために、言葉にこだわって根拠と理由を明確にさせて自分の考えをもたせることを、どの教科の授業でも取り組む。
- ★一人学びのあり方、授業での取り上げ方などの効果的な方法を探る。
- ★全学年で、「聞く」ことを大切にし、他者の思いを受け止め思いを伝え合える児童を育成できるよう、日常生活にそれが生かせるような言葉がけを意識する。

3 学力の定着≪2. 9≫

「言葉の力を身に付ける学習指導を行う。」

【成果や課題】

- 宿題や朝学、授業の隙間時間等で、漢字や算数の学習を（ドリルやプリントなどのペーパーとタブレット両方を使って）効率よくすることができている。
- 国語辞典を使う時間を多く設定し、様々な言葉に接する機会をつくった。
- 帰る前プリントで算数の基礎問題をすることは効果的だと思った。授業中や宿題でも問題量の確保は大切だと思った。
- 終わりの会の後の少しの時間を使って、算数のミニ問題を1～3問することを続けた。その日の授業であつかった問題や類似問題、簡単な計算問題をして定着を図ろうとした。授業の中で定着を図ったが、学習につまずきのある子への支援が追い付かずに定着しきれなかった。個人差が大きいのが課題である。
- 書くことへの抵抗は少なくなったように感じるが、質（漢字を使って分を書く、正しく計算をする等）の向上には課題が残る。

【改善・確認事項】

- ★各学年で、定着させたい学力を明確にして、朝学、帰る前、授業時間の最初などのように時間を工夫して繰り返し取り組む。
- ★個に応じた学力向上の手立てとして、ドリルパークを活用したりスモールステップのプリントを準備したりなどして、児童が自らつまづきを確認しながら個別に学習できるようにする。
- ★各学年の朝学習の活用実態を年度末にまとめ、年度当初に提案する。

4 計画的なケース会議 学年会議≪3. 2≫

「時には広く、時には深く情報を集め、サポートファイルを活用し、継続的・重点的なチーム指導を進める」

【成果や課題】

- 毎週の学年会でノートに記録し、それを基に定期的に生活指導委員会を開くことで各学年の問題等を共通認識し、解決を図る過程ができている。また、職員室の日々の会話の中で、一人の児童に対し多角的な意見を基に、課題を共有し解決を図っている。
- 「サポートファイルの活用」の具体的な方法を考え、定期的に振り返ることで、昨年度よりサポートファイルの活用に関してレベルアップした。
- 問題行動についてはよく相談したが、目立ちにくい支援が必要な児童に対する支援についてチームで話し合うことがあまりできなかった。
- 様々な先生方と連携を取りながら実践できた部分もあったが、SFを取り出して確認できなかったときもあった。

【改善・確認事項】

- ★学年打合せの内容等を工夫する。
（例）・SFに関する時間を5分程度設定する。（目標や進捗状況の確認、保護者の願い確認、エピソード記録記入、他クラス児童のSFを見る等）
・テーマ設定をする（成長を感じた出来事、休み時間の過ごし方等）
- ★SF活用推進の取組（SF活用チェックシート等）を継続し、SF活用事例につい

て、交流する。（紙面交流・研修等）

★担任外の教職員もSFを見る機会を増やし、児童に関わる担任外教員は、エピソード記録に書けそうな事案があれば、担任へ知らせるようにする。

5 交流及び協同的な視点による特支教育< 3. 3 >

「児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。」

【成果や課題】

- 特別支援担当だけではなく、児童支援担当や生活支援担当、養護教諭、生活指導担当等連携し、その児童に対しより良い学びの場を提供できている。
- 1学期当初の児童理解のための研修できらきら学級をはじめとする全学級の配慮を必要とする児童の情報共有の機会があったのは、自分の意識を高めるのに大変意味のある時間だった。
- 年度初めに、きらきら学級の児童への理解を、交流学級で分かりやすく伝えてくれたことがとてもよかった。児童理解が深まったように感じる。
- 啓発朝会は、教師にとっても児童にとってもインクルーシブ教育について考えるいい場だと思った。
- 啓発朝会後の各学級での振り返り方には、学級による差があったように思う。丁寧に扱いたい。

【改善・確認事項】

★研修の中で、インクルーシブ教育について共通理解を図る機会をもつ。

★啓発朝会を継続して行う。

1学期：特別支援学級在籍児童について、交流学級への啓発を図る

2学期：学年朝会等で、学年の発達段階に応じた啓発を行う

3学期：特別支援学級在籍児童による、発表朝会

★啓発朝会後の学級における事後指導について、内容や形式などを特別支援担当より提案する。

6 組織的な生徒指導< 3. 3 >

「いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。」

【成果や課題】

- 定期的な生活アンケートによる聞き取りにより児童の声を聞くことができた。また、学年会で学級の状態を話し合う中で、対応を考えたり情報共有したりすることが組織的にできた。
- いじめアンケートをはじめ、普段から児童とのかかわりを多くもつよう心がけ、児童の様子を把握できるよう努めた。問題が起きたときには、関わりのある職員で、複数で指導にあたることができた。
- 学年全体をみると、トラブルが起こってから解決したことが多々あった。
- 早期発見の部分で、児童の少しの変化に気付けるよう複数の目で見えておくことが必要だと感じた。

【改善・確認事項】

★年度初めに生活指導に関する研修（くらしの約束、指導方法、生徒指導提要等）を行う。

★指導記録（記録ファイル）や問題行動報告の記録および保存、校支援による周知をする。

★学年会ノートの活用していく。

7 勤務時間の適正化<<2. 7>>

「計画的・効果的に業務を行い、勤務時間の適正化を推進する。」

【成果や課題】

- 業務を計画的に行うことに加え、自分の中で精選することで勤務時間を適正に保つことができた。
- ICT 機器を使うことでの学習の準備やその他の作業は効率的になり勤務時間の適正化につながった。
- ノー残業デーには、職員同士で声をかけ合った。また、学年の業務を分担して行ったり、自分から業務を引き受けたりして、適正な業務量になるべくするように心がけた。
- ノー残業デーは、比較的 6 時には帰れているが、それ以外の日は、遅くまで残って仕事をしている現状がある。
- 仕事が追い付いていないことが多かったのもっと計画的・効果的に業務を行う必要があった。放課後に残業できない分は、朝早めに出勤していたため、結局勤務時間の適正化にはなっていなかった。仕事の優先順位をつける必要がある。
- 懇談期間に授業準備などが遅くなる。

【改善・確認事項】

★業務に追われている感じを殆どの職員が持っている。業務量が多いと感じてしまうと、働き方が辛くなる。行事、教育活動等は本当に児童のためになっているか、簡略化できるものなのかを見定めることが必要である。

★増やすならば、何かを減らしてからにする。たし算的な業務の膨れ上がりを防ぐ。

★懇談期間中にどうしても退勤時間が遅くなるので、可能ならば、その期間は、朝学習を無くして1時間目を繰り上げ、授業時間を40分間にして、日程を組む。

8 新型コロナ対応<<3. 6>>

「体温の確認、マスク着用、手指消毒、手洗い等の声掛け及び指導、教室の換気・施設の消毒等を行う」

【成果や課題】

- マスク着用、黙食等を続ける中で、学級閉鎖等を阻止できている。
- 委員会の呼びかけのおかげで意識して取り組むことができた。
- 児童同士でも声を掛け合っていた。
- クラスによっては、マスク着用の意識が低かったり、コロナに対しての人権意識が低かったりするところがある。

【改善・確認事項】

★来年度もこれまでの取り組みを継続する一方、国の動向や校内の流行状況を見ながら、臨機応変に対応する。

★マスク着用の線引きを全教職員が共通理解し、児童への伝達を徹底する。

★教室の換気は、学年団で声を掛け合って積極的に行う。

9 積極的な情報提供<<3. 4>>

「各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。」

【成果や課題】

- 定期的に保護者・地域に情報提供できている。
- 日々の連絡ノートでのやり取りや電話連絡、学校オープンなどで学校の様子を知らせることができた。
- コロナ禍ではあるが、できる限り行事は行い、学校の様子も伝わりやすくなったように思う。
- 学年通信を出す機会が少なかったため、余裕があれば、もっと増やして普段の様子を伝えてもよかったかもしれない。
- HPは、情報委員会の先生に任せっぱなしで、見るができなかった。

【改善・確認事項】

- ★引き続き、開かれた学校を作る意識をもって、情報を発信していく。
- ★HPを有効的に活用していく。
- ★来年度の「tetoru」の活用。通信等をデジタルで送ることも可能であるが、年度当初は、紙媒体で発信する。ただし、「tetoru」の欠席連絡は、活用していく。ただし、長期欠席児童は、今まで同様、電話連絡もしていく。1年生は、学校生活に慣れるまでは、欠席の連絡を電話でする。

10 主体的な規範意識<<2. 8>>

「ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。」

【成果や課題】

- 学級会の話し合いを基にやしろっ子委員会が行われることで、児童一人一人の考えが学校全体につながる仕組みはできている。また、委員会活動も今年からブロック朝会が行われたことで、各委員会が工夫を凝らして全体に伝える場ができている。
- 学校での決まりや、集団生活でのマナーなど、学活、朝の会、道徳などの時間に積極的に話題にした。様々な具体的な場面で、即時に話題にすることで、大切なことなのだと認識できるようにした。
- 委員会から放送やポスターでの呼びかけなどがあり、規範意識が高まった。
- ルールの意識が低い児童が多い。先生からの提案が多く、子どもたち自身がそれに対して、動けていない実態がある。ただし、子ども達で考える時間も限られている気がする。
- 委員会活動において、児童自ら考えさせるには時間を要し、十分に指導できなかった。
- 自主性を伸ばしきれていない部分がある。

【改善・確認事項】

- ★縦割り班遊びや、七夕集会等を、学年の初めに、児童会から提案する。
- ★くらしの約束や指導方法の周知をする。
- ★児童が主体的に取り組めるように学級会、係、当番など特別活動を見直す。

11 熱心な清掃活動<2.7>

「すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。」

【成果や課題】

- もくもくそうじ週間などを設定することで、掃除を最後までがんばる意識付けが少しできた。自分で考えて掃除をする意識も芽生えた。
- 1年生の6年生のとの清掃はお互いに良い影響を与えている。低学年が高学年を見習う場となっている。
- 自分の担当場所に関しては、掃除手順表を掲示することで、それを見ながら掃除するように声かけを統一できた。
- 最後まで頑張る児童と簡単に終わらせる児童の差が激しい。一部の児童は、遊んだりしており、特に高学年の児童が残念である。また、取り組ませ方（特に最後まで掃除場所で掃除をする）にクラスによって差がある。
- 学校全体であまりできていないように感じる。職員みんなで声をかけていく雰囲気を作るべきだと感じる。

【改善・確認事項】

- ★見つけ掃除の意味を児童に浸透させ、教師側の指導や対応を統一したものにする。（時間いっぱいまで、そうじ場所を離れずに見つけ掃除をする）
- ★教師が担当場所以外でも児童の掃除態度に問題があれば声をかける。
- ★全児童、全職員がしっかりと共有するため、教職員が朝会（全校朝会、あるいはブロック朝会）で年度初めに掃除の仕方を伝える。また、適切な時期に学年で啓発する。

12 継続的な「考える」「明るく健康でたくましい」場<2.8>

「自分の目標や学級・学校づくりについて考え振り返る、継続的な場を設営する。」

【成果や課題】

- 学級目標を意識させる言葉がけ、学級通信の内容を意識的に、継続的に行った。特に行事前と後には必ず学級目標にからめた自分について考える時間をとるようにした。
- 学級として、めざす姿を具体的に示して、その姿に近づけるような作戦を適宜話し合っていて、学級全体で取り組めた。調子の上がり下がりはあるものの、どんな姿がよいか明確になっていたのも、日ごと、月ごと、数が月ごとに振り返ることで、集団として成長できていることを実感していくことができた。
- 自分、学級については考えられる児童が多いが、まだ学校全体について考えられるところまで育っていない。
- 継続的に話を聞き、自分の学級、学校をより良くする視点を持たせようと働きかけるが、なかなか響かなかった。
- 目標を持たせ、そこに向けてどう行動するかを考えさせてきたつもりであったが、その行動を十分に評価することができず、児童の気持ちを高めることが難しかった。

【改善・確認事項】

- ★目標⇒振り返りの活動を常態化する。（見える化）
- ★振り返りの方法の情報交換を行う。
- ★学校目標の教師の意識化を行う。（学期ごとの振り返り）

13 主体的な児童活動<3.4>

「主体的な児童活動を推進し、6年生の活躍の場を設定する。」

【成果や課題】

- ブロック朝会やわくわく班遊び、運動会の応援団は、6年生の活躍の場になった。
- 学年集会もそうだが、とりわけブロック朝会の再開はたいへん効果的であったし、これからも継続すべき取り組みである。ブロック朝会を行うことで6年生（児童会や委員会）の活躍の場が保障され、特に「やしろレンジャー」の活躍は目を見張るものがあった。
- ブロック朝会という取組は良かったが、きらきら担任はブロック朝会に参加しにくく、どのように活躍しているのか、どんな内容だったかなど、把握できないことが多くあった。（全校朝会の復活を願う。）

【改善・確認事項】

- ★今年度同様、ブロック児童朝会を継続していく。そうすることで、5年生が2クラスとなるが、4月当初からブロック意識が高まり、6年生になるための準備段階にもなる。そして、令和6年度において、6年生が2クラスになるので、閉校まで継続して取り組む。
- ★ブロック朝会の時の朝学は読書とし、きらきら担任がブロック朝会を見に行けるようにする。

14 それぞれの教職員からの意見

(1) ICT (3.0)

- ごりょうが丘フェスティバルで学習の発表をするのに、タブレットを用いてクイズのお店をした。タブレットを活用していることを保護者や地域の方々にお見せできる機会だった。来年度もどこかの学年はICT活用しているところを見せることができればよいと思う。
- タブレットでの調べ学習やタイピング練習など、今後も行わせたい。
- 決まったことでよく利用はするが、慣れもあり、効果的とまでいくかは疑問。同じように毎回利用せず、新しい見せ方使い方をもっと研究すべきだった。
- ICT支援員に積極的に相談することが大事だった。しかし、相談する時間がとれないこともあり、長期休みなどを利用して相談しておけばよかった。

【改善・確認事項】

- ★学校オープンやごりょうが丘フェスティバルなどで、保護者や地域の方にタブレットを活用しているところを見せる。（できそうな学年）
- ★ICT支援員との相談を密にし、積極的に活用する。
- ★年度当初にタブレットの使い方と情報モラルについて、各学級で啓発する（情報委員会の「タブレットの約束」参照）。

(2) 行事 (3.2)

【成果や課題】

- 遠足、社会見学も全部行くことができたので、学年としてはあまり縮小した気がしていない。運動会は、時間短縮を意識したプログラム進行だったと思う。家庭○名までの制限はまだ継続する方がいい。

○運動会は、午前中開催でも十分だと感じた。来年度も午前中開催が良いと思う。

●PTA 親子活動を次年度以降どうするか協議したい。PTA 三役にも意見を聞く。コロナ禍のこともあるが、5校交流で本校の体育館使用が増えている。そこへ親子活動が入ると、体育館使用がさらに増える。体育の授業時間数は大丈夫か。

【改善・確認事項】

★運動会、ごりょうが丘フェスは、今年度並みを続けていく。

★行事は、駐車場の都合上、全土曜日開催とする。

★PTA 親子活動は、PTA 三役と相談しながら、できればなくす方向で進めていく。

(3) 遠足

【成果や課題】

●実施時期について、一週間程度早める・GW の中日の実施という意見があった。今年度は 5/18 実施だったが、他校と重なってしまい、活動できる範囲が狭くなったり、当日は夏日だったので、暑さでしんどい思いをした児童がいたりした。

【改善・確認事項】

★来年度は 4/21 (金) 実施、4/28 (金) 予備日とする。

(4) 読書推進

【成果や課題】

○学級文庫を増やしたことで、児童が本を手に取りやすい環境を整えることができた。

○積極的に図書館を利用することができた。

●朝会の無い日は「読書」を決まっていたが、各学級によって、取組具合が違ったのではないかと。研究推進で「言葉の力」を掲げているということもあるので、読書の時間の充実を図るようにすればどうか。

【改善・確認事項】

★朝学の読書の時間をクラスの実態に合わせて充実させていく。(本の紹介、読み聞かせ等)

(5) 6月の保幼小連絡会

【成果や課題】

●1年生全員のための6月の連絡会は、全員の必要性がないため、なくす。

【改善・確認事項】

★1年生全員のための6月の連絡会を実施しない。情報が必要な児童がいる場合は、こちらから園に連絡を入れ、個々に情報提供をするようにする。